

# 英国 オックスフォード訪問記

## visit in Oxford England

写真1

8月下旬より英国（オックスフォード）を訪れる機会がありました。帰国後も数年毎に訪れていましたが、コロナ禍により9年ぶりの訪問となりました。久々の訪問で出国前の気分は高揚していましたが、ウクライナ問題でロシア上空を飛ばないため、アラスカ・北極点経由のエコノミーフライトは14時間半を要し、腰痛持ちの私にはまさに修行の様相を呈しました。まず、ロンドン入りし国立病院機構循環器グループの共同演者として3演題を登録したヨーロッパ心臓病学会（現在、世界最大規模の心臓病学会と思われます）に参加しました。

その後、オックスフォード大学を訪問しました。今夏、天皇皇后両陛下が数十年ぶりに訪れたことで紹介されましたのでオックスフォードの町並みを目にした方も多いのではと思います。ハリーポッター・ホグワーツ魔法学校のモデルとなったクライストチャーチに代表される町並みは中世にタイムスリップしたかの錯覚に陥ります（写真1：サウスパークからの風景）。欧米において学問と歴史の中心とされる緑豊かなオックスフォードの街を是非訪れてみてください。



写真2（左端がKarpe教授、右端がFrayn教授）

オックスフォードを訪れる際には、現教授（Prof. Fredrik Karpe）のご自宅にいつも滞在させていただいています。外科専門医の奥様は相変わらず診療業務が多忙なため、初日の夜は現教授の十八番Sweden家庭料理とワインで和やかに過ぎて（酔っ

て）いきました。翌日は私が留学していた際の教授（Prof. Keith N Frayn）のご自宅での昼食会に招かれました（写真2：中庭にて）。今年出版された医学書をお土産として頂きましたが、私が滞在していた約20年前と同様にクロスカントリーを駆け抜け、英国の教科書を書き続けている前教授のライフスタイルと英国紳士としての姿勢に改めて感銘しました。最終日は留学施設（写真3：Oxford Centre for Diabetes, Endocrinology and Metabolism）を訪問し、愛媛医療センター



写真3

で携わっている心臓リハビリテーションに関する意見交換を行いました。帰国後かなりの時間が過ぎた今でも家族のように迎えてくれるオックスフォードの人々の暖かさに感謝するとともに、学んできたことを現在の日常診療に少しでも還元できればと思っています。

特命副院長 船田 淳一